

# 登山鉄道反対団体が大会

## 「県の新方針注視」

甲州

国中地域の住民有志でつくる「富士山登山鉄道建設反対県民会議」（飯島徳男代表）は20日、甲州市民文化会館で決起大会を開いた。富士山登山鉄道構想を巡り、県が鉄路整備を伴う輸送手段を断念し、ゴムタイヤ式の新交通システム「富士トラム（仮称）」を検討する方針を示したことを踏まえ、今後の動きを注視

することを確認した。

国中地域の住民ら約1000人が参加し、堀内茂富士吉田市長や宮島雅展前甲府市長、荻野正直元笛吹市長らも出席した。飯島氏は「今回の決定で『もう終わった』という認識の人が多いが、自然破壊につながるような開発が行われないよう注視しないといけない」と呼びかけた。



堀内氏は「県が大開発自体を断念したことはワンステップ進んだ」と評価。富士吉田

県の姿勢を注視していくことなどを確認した富士山登山鉄道建設反対県民会議の決起大会  
〓 甲州市民文化会館

市などが実証実験を進めている電気自動車（EV）バスが有力な手段との考えを示し、「議論のために県には（富士トラムの）事業計画や技術的に可能ななどの情報を開示してもらい、安全性や費用を比較して素晴らしい方でやるべきだ」と注文を付けた。

〈雨宮文貴〉  
〓「論説」3面

かいじネットワーク